
**「より優れた医薬品を求めて」革新的医薬品とジェネリック医薬品を提供する寿製薬株式会社。医薬品の製造販売会社として1949年に長野県で創立した同社は、純良な医療用医薬品を医療現場に提供してきた。機密性の高い創薬情報や各種の個人情報を取り扱う同社では、情報セキュリティ対策の強化は「投資」だと考えて、Sophos MDR Completeを導入し24時間　365日の監視体制を実現した。**

## CUSTOMER-AT-A-GLANCE

KotobukiPharma
寿製薬株式会社

**寿製薬株式会社（Kotobuki pharmaceutical Co., Ltd.）**

**本社所在地**　〒389-0697 長野県埴科郡坂城町大字上五明字東川原198

**代表取締役社長**　冨山 泰

**資　本　金**　1億円

**ホームページ**　https://www.kotobuki-pharm.co.jp/

**ソフォスソリューションズ**　Sophos MDR Complete

# 旧世代のエンドポイントセキュリティ製品が抱えていた課題を、Sophos MDR Completeは劇的に改善しました。

寿製薬株式会社
IT&デジタルソリューション部
DX推進リーダー
和田 直也 氏

1949年に長野県で創業した寿製薬株式会社は、50年を超えるロングセラー医薬品のマーズレンS配合顆粒をはじめとして、数多くの高品質な医薬品を製造販売している。同社では、長野県の本社と東京や大阪の事務所で、約130名（2023年10月現在）の社員がPCを利用している。社員が利用するPCやネットワークを管理しているIT&デジタルソリューション部では、情報セキュリティ対策も担っており、2018年ごろから急増したランサムウェア等サイバー脅威に対して情報セキュリティ対策の強化に取り組み、24時間365日の監視体制を提供するSophos MDR Completeを採用した。

## ビジネスチャレンジ

「増大するサイバー脅威の被害報道からセキュリティ対策の強化を加速」

寿製薬株式会社がSophos MDR Completeを採用した背景について、IT&デジタルソリューション部の和田直也DX推進リーダーは次のように振り返る。
「長年にわたり旧世代のエンドポイントセキュリティ製品を利用していましたが、2018年ごろからランサムウェア被害のニュースを数多く目にするようになり、IT&デジタルソリューション部では情報セキュリティ対策の強化に取り組むべきだと考えるようになりました。そこで、ランサムウェア被害やEmotet感染などを防げる次世代型のセキュリティ対策を検討することにしました」。
和田氏は、「セキュリティ対策を強化するために、インターネットでのサーチを含めて、どのような対策を導入すればいいのか調査しました」と話す。

## テクノロジーソリューション

「次世代エンドポイントセキュリティと
包括的な監視体制を求めて
Sophos MDR Completeを採用」

IT&デジタルソリューション部では、ランサムウェア被害やEmotet感染を防ぐために、当初は部分的な強化策も検討した。その経緯について、和田氏は「2019年から検討を開始した当時は、メールやウェブアクセスなどに特化したセキュリティ対策を追加で導入すれば、被害は防げるのではないかと考えていました。しかし、セキュリティ対策に精通した専門家に相談したところ、エンドポイントセキュリティを次世代型に更新すると同時に、包括的な監視体制を採用するべきだという提案を受けました」と振り返り、「確かに、旧世代のエンドポイントセキュリティでは、社員のPCがマルウェアなどに感染したかどうかは、本人から連絡があるまで分からない状況でした。また、感染が分かっても、復旧するためにはPCを本社まで送ってもらい、IT&デジタルソリューション部で対応するしかなかったのです。こうした課題を根本的に解決するためには、24時間365日の監視機能により、脅威を検出するだけではなく、復旧までを一貫してサポートしてくれるフルマネージド セキュリティサービスの導入が最適だ、と考えるようになりました」と補足する。

さらに和田氏は「フルマネージド セキュリティサービスの提案に関しては、数社のサービスを比較検討しました。ところが、多くのサービスは最低300ライセンスからという制約があり、当社の事業規模には合わなかったのです。それに対して、Sophos MDR Completeは1ライセンスからの導入にも対応していたので、当社に最適なフルマネージド セキュリティサービスだと判断しました」と選定の理由を語る。

## ビジネスインパクト

「情報セキュリティの管理が劇的に変化し
安心感が格段に向上」

24時間365日の監視機能と、検出から復旧までの一貫したサポート体制、そして中小規模の導入にも最適なライセンス体系、という3つの観点からSophos MDR Completeが採用され、2022年11月から運用がスタートした。その効果について、和田氏は「Sophos MDR Completeによって、情報セキュリティの管理は劇的に改善されました。クラウド管理ソリューションのSophos Centralを通して、全国各地に点在するPCも遠隔で監視できるようになり、常に安全かどうか確認できるようになりました。そのおかげで、Sophos Intercept Xの導入時にも、社員のPCに正しくインストールされたかどうかをリモートで把握できました。また、24時間365日の監視により、システム担当の運用負担も大幅に軽減されました」と評価する。

さらに、Sophos MDR Complete導入後の具体的な効果として「マルウェアだと思われるメールの添付ファイルを、間違ってデスクトップに貼り付けてしまったときに、Sophos MDR Completeが即座に反応し、感染は未然に防止されて、データも

流出しないで守られました。管理者に通知が届くと同時に、デスクトップに貼り付けられた添付ファイルも自動的に除去されました。操作ミスが原因とはいえ、実際に通知と除去を体験したことで、Sophos MDR Completeへの信頼度も高くなりました」と和田氏は実感する。

## フューチャービジョン

「セキュリティ対策は投資と捉えて今後も積極的に取り組む」

Sophos MDR Complete導入の決裁に携わってきた取締役総務部長の佐藤一弘氏は、その効果とセキュリティ対策への取り組みについて、次のように話す。

「システム担当からの話を聞いて、当社に合った優れたフルマネージド セキュリティサービスを導入してもらえたと評価しています。一般の社員は日々の業務に注力しているので、セキュリティ対策を常に気にかけているわけにもいきません。それだけに、社員が安心してITを利用できるセキュリティ対策の強化は、コストではなく投資だと考えています」。

今後の取り組みについて、和田氏は「ソフォスの資料によれば、Sophos MDR Completeによる監視体制の強化は、目標とする5段階のレベルにおいて2段階目にあたります。それだけに、今後もソフォスの協力を得て、次のステップへと進んでいきたいと考えています」と展望を語る。

寿製薬株式会社
取締役総務部長
佐藤 一弘 氏





SOPHOS